

セネガル通信

～日常や活動を岡山県の皆さんにお届けします～

JICA海外協力隊
2025-1次隊
小学校教育
長尾有花
2026/05/20

生活と深く結びつく宗教

セネガルの約97%はイスラム教徒です。残りの約3%にはキリスト教徒もいますが、お互いの信仰を尊重しながら共存しています。

神様「アッラー」を信じ、一日に5回、聖地メッカの方角を向いてお祈りをします。お店の前や道端で、水で手足や顔を清め、お祈りをする姿を日常的に目にします。

また、セネガル人はよく、「インシャーラー（神のみぞ知る）」という言葉をお口にします。「また明日ね、インシャーラー」といった具合に、未来のことは全て神様に委ねるといった考えが根付いています。



金曜日は特別な日



イスラム教において、金曜日は大切な礼拝の日です。多くの人々がモスクに集まります。

そのため、色鮮やかな伝統衣装や正装を身につける人が多く、町全体が少し華やかな雰囲気になります。子どもたちも金曜日は正装で登校しています。

ダーラとタリベ

イスラム教の教えやコーランを学ぶ学校を「ダーラ」といいます。

そこに通う子どもたちは「タリベ」と呼ばれています。多くのタリベは、親元を離れて生活しています。

道端でお金や食べ物を求めている子どもたちの姿を見かけることもあります。



ラマダン期間の過ごし方

ラマダンとは、約一か月間、日の出から日没まで（約12時間）飲食できない、イスラム教の大切な期間のことです。ただし、小さな子どもや高齢者、病気の人などは断食を行いません。

この期間は、神様への信仰心を深めたり、食べ物に困っている人の気持ちを考えたりする目的もあります。

私の任地のカオラックでは、気温が40度近くまで上がりました。その過酷な暑さの中、空腹に耐え、ぐったりしている人の姿を多く見かけました。

また、ラマダン期間中は、生活のリズムも大きく変わります。昼は静かに過ごし、日没後は一転してにぎやかになります。

長い時間、飲まず食わずで過ごすことは、私にはとても大変に感じます。毎年行っているイスラム教徒の人々はすごいなと思いました。

【日没後の食事】

日没後すぐに、家族で食事（ンドグ）をします。まずは、デザート（なつめやし）から食べ始め、コーヒーやパンで胃を落ち着かせます。

2回目のご飯は深夜12時過ぎでした。この日は、セネガルの定番料理「ヤッサギナール」（ご飯の上に、玉ねぎと鶏肉が乗った料理）を食べました。



ラマダン明けのお祝い「コリテ」



ラマダンが無事に終わると、「コリテ」と呼ばれるお祭りが開かれます。町に大勢の人が出てきて、賑やかで、日常に戻ってきたようでした。

前日から準備が始まり、女性は髪を編み込んだり、手にヘナで模様を描いたり、新しい服を仕立てたりします。

コリテ当日は、いつも以上に豪華な料理が並びます。じっくり時間をかけて調理された羊肉をみんなで囲みます。私も一緒に食事をいただき、特別な一日を感じる事ができました。

次回、セネガルで活動している隊員の様子をお伝えします！